

# 令和4年度 全国学力・学習状況調査における 本校の結果分析と今後の学習指導の取組について

新宿区立淀橋第四小学校

## 1 全国学力・学習状況調査について

全国の小学6年生と中学3年生を対象として、学力・学習状況調査が行われました。その結果を受けて、本校児童の結果のまとめと、今後の取組をお知らせします。

## 2 結果の分析と今後の取組（○良かった点、△課題、→改善のための本校の取組）

実施教科	
国語	<p>○全体の平均正答率が69%と全国、東京都を上回っている。</p> <p>○話すこと・聞くこと、書くことの領域における平均正答率が高く、全国、東京都を上回っている。</p> <p>○問題形式を見ると、短答式、記述式で解答する問題の平均正答率が高く、「全国」、「東京都」ともに上回っている。</p> <p>○問題形式を見ると、短答式や記述式での平均正答率が高く、最後まで考えて書こうとする姿勢が見られる。</p> <p>△読むことの、「表現の効果を考える問題」で平均正答率が57.8%と低く、全国、東京都を下回っている。</p> <p>→伝えたいことを効果的に伝えられる表現方法について課題が見られる。授業で扱う文章の中で、効果的な表現方法に意識的に触れるようにし、慣れさせていくことで改善を図っていく。</p> <p>△学年別漢字配当表に示されている漢字の活用において、平均を下回っている問題がある。</p> <p>→文章を読む中で年間を通して、漢字を復習しながら熟語の確認をしていくことで、言語に関する事項の学力の向上を図っていく。</p> <p>△文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける問題で、正答率が50%を下回っている。</p> <p>→日常の授業でも自分の言葉でまとめることに苦手意識をもつ児童が多いと感じる。このような問題に日頃から慣れるような指導が必要である。教師が効果的な文章の型を示したり、授業の中で自分が考えたことや感じたことを文章化させたりする場面を増やし、自分の言葉でまとめる力を身に付けられるようにする。</p>

算数	<p>○全体を通して無回答が少なく、時間配分を考え、最後まで問題に取り組むことができた。</p> <p>○全体の平均正答率が69%と全国、東京都ともに上回っている。</p> <p>○「数と計算」「図形」「データの活用」の領域については、全国、東京都の平均を上回っている。</p> <p>△「変化と関係」は、東京都の平均を下回っている。特に、正答数が低かったのが、伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述する問題である。</p> <p>→これは、数の関係を理解していないことが課題であると考え。文章問題を解く時には、数の関係を数直線に表せるように授業の中で数直線に表す活動を継続して取り入れていく。</p> <p>△記述の問題においては、どの問題も正答率が低く、無回答の児童も見られる。</p> <p>→授業の中で、「なぜそのような式(答え)になったのか」という理由を自分なりに説明する場を増やしていくことが大切である。正解か不正解だけでなく、自分の考えを言葉で説明していく力を身に付けられるような授業を行っていく。また、友達の説明を聞くことで内容の理解につながったり、説明する力が高まったりしていけるよう、対話的で深い学びの場をつくっていく。</p>
理科	<p>○全体の平均正答率が65%と全国を上回っている。</p> <p>○「粒子」を柱とする領域については、全国、東京都の平均を大きく上回っている。</p> <p>△「昆虫の体のつくり」「日光の光」「気温の変化」の問題では全国、東京都の平均を特に下回っている。</p> <p>→これらの学習は、3年生・4年生で学習した内容である。学習した内容を忘れてしまっており、定着していないことが分かる。中学年で学習した内容を想起させながら、高学年の学習内容へつなげていくことが求められる。</p>
習慣や学校環境に関する質問紙調査	<p>○「自分にはよいところがある。」と感じている児童が87%以上と肯定的な意見をもっており、自己肯定感が高いということがいえる。</p> <p>○「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。」「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。」と回答している児童の割合が多く、全国、東京都の平均を上回っている。</p> <p>△「学校が楽しい。」と回答する児童が約65%と東京都、全国の平均を大きく下回っている。合わせて「進んで人を助けている。」「友達と協力することが楽しい。」と回答する児童の割合も東京都、全国を下回っている。</p> <p>→友達関係が希薄であると考えられる。行事の中止や縮小の中で、友達と協力してやり遂げる経験が少ないことが原因の一つと考えられる。授業の中での共同学習を取り入れたり、行事を通して達成感を感じられるようにしたり、協力することの楽しさを感じられるように指導していく。</p>

### 3 結果の返却とご家庭での活用について

9月に個人票とあわせて、問題用紙を返却しました。ぜひ、総合点だけでなく、教科別、単元別に問題と結果を照合してご覧ください。児童自身で課題を見付け、自主的な学習にも活用してください。

特に、正答率が低い単元があれば、その単元について学習した際の教科書やノート等を使って復習を行います。さらに、正答率の高かった単元については、発展的な課題に取り組むのもよいでしょう。

本校全体の児童の課題の一つとして、定着のための反復学習をとる時間の少なさが挙げられます。今回の学力調査の結果を基に、継続した家庭学習につなげてください。